

中国の飲用水事情（ペットボトル水）

中国の飲用水やペットボトル水の市場調査について、上海の一般情報として、報告する。

中国の飲用水は、都市住民において、一般的に水道水、ボトル詰め水となっている。中国衛生部が発布した《生活飲用水衛生標準》（GB5749-2006、2006年発布、2007年1月より実施）は、現在の中国飲用水の基本基準である。但し、各々の地方は、水道水、ペットボトル水などについて、管轄機関によって、それぞれの基準を実施しており、混乱を起すこともよくある。

一．水汚染と水不足が深刻

1. この20年間の工業発展とともに、中国の水源地汚染が深刻な状態になった。水道水の消毒のため、浄化剤を多く使っているため、水道水には臭いがあるので、沸かして飲むのが一般常識になっている。

一説では、チベットの山を除き、国内にはそのまま飲める天然水がない。

公式発表によると、中国では82%の人が浅い井戸と川の水を飲用する。その水源において、水質汚染や細菌が基準値オーバーであるのは全体の75%、有機物（残留農薬など）汚染を受けた飲用水の人口は約1.6億人である。

2. 中国は水資源不足の国の一つで、水資源の総量が世界6位、一人当たりの量が世界平均の1/4で、世界で第110位と下位にある。

水不足問題は近年ますます深刻化している。特に中国北方地域では、川の断流日数は毎年増えつつある。中国二番目の川、黄河の断流は1972年から発生、1996年に断流地域が下流部分683キロメートル、断流日数が136日にもなった。

華北地域（北京、天津などの大都市の所在地域）の水不足は毎年報道され、大量に地下水を使用して、大変な地質問題になっている。現在中国政府が実施している世界級の大インフラ整備「南水北調」工程（長江中流の水をトンネルと人工水道で北京、天津周辺に引くこと）は重大な水不足を表している。

3. 水汚染の地域差

水汚染は全国的な問題ですが、都市部と農村部の格差は大きい。都市部は水道水、ボトル水などの処理済みの水を主に飲用しているに対し、農村部（都市周辺を除く）は河川、井戸の天然水を飲用する。しかし、全国的な汚染状態の中で、天然水がきれいだという保障はない。

二. 飲用水に対する認識と要求の変化

1. 都市住民家庭での水の飲用方法の変化：

- 1) 20 年前までに、水道水をそのまま沸かして飲むのが一般的
- 2) 15 年前から 2010 年までに、市販のボトル水（18L が一般的）を飲水機で飲むことが主流になった。ボトルが交換式で、電話で注文して配達してもらう。現在も続いているが、少し変化が出ています。なお、会社事務所などはボトル水の利用が普及している。
- 3) 2010 年から、引水機の二次汚染や、ボトル水メーカーの水質問題などの影響で、配達式のボトル水の需要が減りつつある。

現在、下記三つの飲水方法は都市家庭で三分している。

(1) 水道水で濾過、浄水器で処理して、沸かして飲む。

(浄水器は一大市場)

(2) ボトル（配達）＋飲水機

(3) 市販のボトル水（2-5.5L）、ミネラルウォーター、純浄水

輸入ペットボトル水にこだわる消費者も増えつつある。

2. 認識の変化

現在、中国の飲用水の質や衛生面の問題が報道されているため、市民は飲用水に対する認識と要求をしだいに高めている。

今、水の色、硬度、PH 値、ミネラル成分、細菌数、生産日、水源地などの指標や情報は選択の要素になっている。特に、硬水、軟水概念も普及し始めている。

3. 要求の変化

飲用水における認識の変化で、水質、成分構成、ブランドなどにおける要求は認識のアップにより、次第に高まっている。大部分の人は収入等の制限で、現在もそのまま国産の飲用水や水道水を利用し続けるが、一部の富裕層は輸入の水を使用しだしている。

現在、高級スーパー、ネットショップ、電話ショッピングなどは、多種の輸入ミネラルウォーターを販売している。そのうち、日本各地産の数種類の商品も含まれる。

三. 国産ペットボトル水の事情

中国では、ペットボトル水は「瓶装水」という。莫大な人口のもとで、ペットボトル水の消費量は年間 1000 万トン（2010 年）、世界 3 位（中国産業情報サイトの記事参照）。

1. 国内ペットボトル水の代表企業（ブランド）

市場調査によると、飲用水（水道水、地下水を除き）企業は、三大集団がある。

農夫山泉、娃哈哈（ワハハ）、樂百氏の三つの企業グループは第一グループ、三強は市場半分弱のシェアを占める。ネスレ、康師傅、天与地等外資合弁の企業は第二グループで、発展の潜在力を持つ。広東怡宝、益力、景田、水森活、屈臣氏など国内十数社は第三グループで、一省或は数省の域内である程度のシェアを持つ。また、全国各地におよそ 3000 社あまりのメーカーがあるが、前の三大グループと比較できないほど小さい規模の企業である。

データによると、農夫山泉、娃哈哈（ワハハ）、樂百氏、ネスレ、康師傅、天与地、怡宝、益力、水森活、屈臣氏など十大ブランドは市場の 88.3%のシェアを占めて、絶対の競争力を持つ。

2. 小売価格（スーパーやコンビニ価格）

小売価格は店によって違い、全国统一価格がない。

参考：農夫山泉	500ml のペットボトル	(1.2 元—1.8 元)
	2L	(3—5 元)
樂百氏	500ml 高級装	(2—4 元)

3. 新規高級商品

中国鉄道部とチベットの地方政府は共同でヒマラヤ山脈の高山水を開発し、「5100」ブランドのミネラルウォーターを発売した。海拔標高 5100 メートルの雪山で採水し、高い質をアピール。このミネラルウォーターの市販価格は 5 元以上（500ml）、国産高級水として知名度が高い。

4. ペットボトル水基準の争い

2013 年 3 月から、北京の京華日報は農夫山泉のボトル詰め飲用水の使用基準が北京市基準に達していないというショッキングな報道が出た。また、同時期に、農夫山泉の採水地の汚染や、ペットボトルから異物が入っているというネット報道も飛び出した。マスメディアは、農夫山泉が本社所在地の浙江省の基準に基づくと全国基準より低いと指摘されているのに対し、農夫山泉はこれは競争相手の不正競争と反発し、争う姿勢を見せている。

この事件によって、全国各地で飲用水基準や、知識などについて、大論議を起している。

これまでに、中国各地で実施したペットボトルの大まかな基準は 4 つがある。中央政府はこの事件をベースにして、2015 年までに、全国统一基準を作ると発表した。

四．輸入飲用水

輸入飲用水はボトル詰め水がほとんどで、主に 500ml と 2L のペットボトル水である。

1. 「エビアン」は高級飲用水の代表

中国で一番知られている世界の水はやはり「エビアン」です。「エビアン」は 10 数年前から輸入され、主にホテル、外国人向けの高級スーパーやレストランで販売し始めた。現在、知名度と地域カバー度は外国ブランドの飲用水のなかで一番で、高級飲用水のシンボルになっている。

「エビアン」の小売価格： 11 元—13 元 (500ml)

高級喫茶店で、20—30 元

2. 日本産飲用水の輸入販売

4、5 年前から、日本産ミネラルウォーター (500ml と 2L) は上海、北京、広州などの大都会で販売し始めた。

1) 銘柄

これまでに、十数の銘柄があるが、現在、主に富士山系、六甲系、北海道系、九州系、連峰系 (富山) などで輸入、販売されている。

2) 販売場所は、

高級スーパー (上海ではシティスーパー、久光、伊勢丹など)、日本人向けのスーパー、出前店など。

3) 日本産飲用水のセールスポイントは、採水地の知名度、軟水、天然など

4) 輸入港

ほとんど上海港 (広東省の場合、香港から)

5) 日本産水の需要が高い地域： 北京

物流、物量などの問題で、北京では日本産の水が少ないので、関心が高く、問合せも多い。

参考まで、

- ・富士山 拓開(上海)商貿有限公司；静岡本社トーカイホールディングス
<http://www.tokaigroup-china.com/jp/>
8L 2本 360元 (ドリンクサーバー用)
- ・立山 上海宙納経貿発展有限公司
<http://www.japan-water.com/jp/index.asp>
2L 1本 16.8元

五. 参考まで ; 中国飲用水基準について

中国産の飲用水、水道水のほとんどは硬水です。人の体によくないことが現在認識されつつある。また、バランスがよくないミネラル成分や水質が多いので、日本産飲用水の成分が最も健康にいいことをセールスポイントとしていけばアピール材料となる。

中国衛生部が発布した《生活飲用水衛生標準》(GB5749-2006、2006年発布、2007年1月より実施)によると、

1. 色 無色、15度まで
2. 臭い 無臭
3. PH 6.5—8.5 (7.5—7.9、弱アルカリ性が最も適当)
4. 硬度 CaCO_3 が 450mg/L 以下 (150 以下が軟水という)
上海の水道水が 400 近い、エビアンが 450 を超えた
農夫山泉が 220 前後 (ネット発表)
5. 鉄: 0.3mg /L 以下
6. マンガン 0.1mg /L 以下
7. 銅 1.0mg /L 以下
8. 亜鉛 1.0mg /L 以下
9. ミネラル成分について、特に規定数値がない。

(ミネラルウォーターの専門基準が別途に制定した)